

「生活保護は終わり」の意味は・・・

終わりの始まりは、終わりであって同時に始まりでもある！ 何が？

朝の慌ただしい会話を反芻してみると・・・意外に難解・・・

「生活保護の選択は人生の終わり」の真意は・・・

朝、夜間学校ニュースを配っているときに、時々声がかかりました。そして、ちよつとした会話が始まります。

「生活保護に行く言うことは、終わりいうことや」

これが最初の一言です。(多分、私の記憶では・・・)

この「終わり」の意味は、なんなのでしょう。生活保護と関連して、一般によく言われるのは、「人生の終わり」という意味合いです。

私の考えでは、人生の終わりとは、生物的死を迎えることです。生が続いている限り人生(人の生)に終わりはなく、生活保護を受けても、死を迎えるわけではないので、「終わり」という言葉を使うには違和感があります。

そこで、「終わり」というのは、どうも・・・と、疑問を投げかけました。

「65歳になって生活保護へ行くゆうことは、それまで年金にも関係ない生活を送ってきたいうことや。特掃もやめんならん。それが終わりゆうことや」

これが難解で、ここでは二つのことが言われている

ように思えます。

一つは、65歳までの生活のこと、もう一つは、生活保護を受けてからの生活のこと。

何歳で棺桶の蓋が閉まるか判りませんが、その棺桶の蓋が閉まる時まで、公的扶助に頼らず生きたいという自分の願いが、生活保護申請することで、実現不可能として確定してしまうという、そういう意味での、「終わり」。

「特掃」を、自らの身体を動かして収入を得る手段であり、そのことによって社会(仲間)との対タイの関係が維持されているものと考えれば、社会(仲間)との対タイの関係の「終わり」。

一言にまとめれば、個人の尊厳・誇り・自尊心の「終わり」と、この人は言いたかったということでしょう

か？
個人の誇りの基礎は、自分の稼ぎで生計を維持することである、という考えを、この人は持つておられるようです。この考え方は、「人生の勝者」、「人生の敗者」という言葉に結びつくものだと思います。

「人生の敗者」と「誇り」は無縁と・・・。

勝敗があると言うことは、人生は勝負ということになります。

「勝負〱ギャンブル」についていえば、基本はペテンで人の金を巻き上げるシステムです。

多くの人の賭け金は一つにまとめられ、胴元（公営ギャンブルしか認められていませんので自治体）が寺銭を取って、残りを結果的中者に割り振って支払います。

賭け金の総額を一定の金額だとすれば、延々勝負を続けければ、全ての賭け金は胴元のものになって、賭ける人は全員、オケラになります（たとえば、賭け金総額が10万円で寺銭2割とすれば、1回目の配当金総額は8万円、2回目の配当金総額は6万4千円・・・）。

ギャンブルが成り立ち続けているのは、オケラになった人は退場し、新たな参加者が加わるからですし、オケラになった人が、ギャンブル以外で稼いだお金を、賭け金として投入し続けているからです。

ペテンが明らかなのに、ギャンブルの参加者が減らないかについては、二つのことが考えられます。

人はそれぞれに、自分は人より運が強いと思ひ込む傾向があること（その根拠は、自分がまだ死なずに、運良く生きていることに求められます）。

ギャンブルに手を出さか出さないかは個人の選択の問題であり、結果については自己責任といえるので、ギャンブルを提供している側

には責任がないと言いつづけられていること。

さて、ギャンブルの勝ち負けは、賭け金が底をつくことではつきりしますが、人生の勝ち負けは、何を持って判定されるのでしょうか。

話の最初に戻れば、声をかけた人は、自力で生計を維持できなくなる状態、社会（仲間）との対タイの関係が失われる状態、個人の尊厳・誇り・自尊心を失うか傷つけられる状態を、「人生勝負の負け」と考えていると、私なりにまとめました。

ギャンブル・勝負事は、いくらデータで検討しても、最後は運任せです。「がちがちの鉄板レース」でも荒れて大穴となることがあるように。

「人生が勝負」とすれば、結果は、運不運にも左右されると理解されます。また、資本主義社会の競争・勝負は、公営ギャンブル同様ペテンを含んでいます。そもそも勝負に参加するに当たって、参加者の資質・能力について平等性が保障されていません。社会の富総額の配分方法が、現在の勝者によって決められるという一人勝ち傾向の強い方式になっています。

「自力で生計を維持できなくなる状態」が「負け」であるときれるのは、運不運や数学の問題であって、「誇り」、「社会（仲間）」との対タイの関係に関わる哲学の問題ではありません。人は数理でなく、哲学によって生きるべきです。生活保護制度は、数学の制度でなく、哲学に基づく制度です。数学から哲学へ、生活保護制度の活用を！